



横須賀学院同窓会 会報



学院の今

学院は今年創立74年を迎えました。学び舎へ向かう三笠公園通り、かつての海にはマンション群が並びます。校門を入ると左はチャペル棟、右は小学校舎です。さらに進むと左に中学・高校の校舎があり、右には体育館。突き当りは、2号館(旧4号館)、左右に運動場があります。9月21日(土)の文化祭には、現在の学校の様子を体験したり、懐かしい同窓生との語らいにぜひ、お越しください。



「喜びと祈りと感謝」

日頃より沼田会長はじめ、同窓会の皆さまには様々な面でご支援、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年度3月、6年に亘り横須賀学院の院長として学院の歴史と伝統を継承しつつ、心から学院を愛し、学校の発展、生徒たちの教育、人間形成のために情熱を注いで来られた二瓶浄幸先生が勇退されました。優しい笑顔、温厚な人柄、豊富な知識、卓越した統率力で我々教職員を牽引してくださった先生が去られることは大変辛く、学院にとって大きな損失ですが、今後も学院の発展のために祈り続けてくださると思います。

その後を引き継ぎ、今年度4月より院長職を仰せつかりました。故井荊堯子元院長、二瓶前院長の後を受け継ぐことは大変責任が重く、恐れ多いことですが、何事に対しても誠心誠意、前向きに取り組み、今後の学院の発展のために歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

終戦直後の1950年（昭和25年）に創設された本校は、今年創立74周年を迎えました。創立にあたっては、多くの先人たちの計り知れない努力がありました。その後も、幾多の困難や試練に遭遇しましたが、基本精神である「敬神・愛人」、生活目標の「誠実・努力・奉仕」、2014年に策定された「ミッションステートメント」のもと、キリスト教に基づく人格教育に邁進してきました。毎日の礼拝・聖書科の授業・キリスト教行事を通して、「如何に生きるべきか」を一人ひとりに問いかけ続けてきました。その理念は、今後も変わることはありません。誰にでも与えられたタラント（賜物・資質・天分）を遺憾なく発揮し、失敗を恐れず、前向きに歩んでくれることを願っています。

今、社会は目まぐるしく移り変わっています。急速に進むグローバル化、AIの進化、少子高齢化社会等、変革する社会を敏感に捉え、的確、迅速に対応する判断と勇気が必要です。今後も先人の思いを継承しつつ、更なる飛躍のため、教育内容の充実、強化を目指します。尊ぶべきたった一度の人生です。与えられたミッション（使命・天命）を自覚しつつ、建学の精神に基づく教育方針を明確にし、自分を愛するように、隣人を愛することのできる心豊かな人間形成を目指してまいります。

これから先も様々なことが待ち受けているかもしれませんが、『いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝する』、という聖書のみ言葉を心に留め、日々、教職員一丸となって前向きに歩んで行きたいと思っています。

今後とも同窓会の皆さまのご支援、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



母校発展のために

新涼の候とはなりましたが、日中はまだまだ暑さが続いております。同窓生の皆さまにおかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。

さて、政府は今年の5月4日付けで外国人を含む15歳未満の子供の人数が1,401万人で43年続けて減少したと発表しました。前年より33万人少なく（人数、割合とも比較可能な1950年以降最低を更新しました）、出生数の落ち込みによる少子化の進行が更に鮮明になりました。このように厳しい教育環境の中で一番求められるものは、やはり「教育の質」と考えられます。幸い横須賀学院は、確固たる建学の精神の基に学校教育に携われた多くの先生方によりその精神が受け継がれ、またそのご尽力により内容的にも素晴らしく向上し、キリスト教精神の学校として社会的にも高い評価を得るに至りました。また、近年はグローバル教育にも力を入れられており更なる飛躍が期待されております。我々同窓生にとっても母校の発展と活躍にはいつも勇気づけられ励みになっております。また、一方で同窓会としても母校発展のため微力ではありますが様々な援助制度を設けております。例えば在校生への奨学金制度、各クラブ活動への助成、部活動での主要大会への出場激励費の贈呈等の制度を設けております。今後も同窓生の皆さまの力を結集して母校を応援させて頂きたいと考えておりますので、同窓生皆さまのご理解とご協力を宜しくお願い致します。



キリスト教教育の礎としての小学校

小学校に奉職し30年、担任として19年その後管理職として小学校教育に携わってきました。就職直後は「まあ2年も勤めればいいかな」くらいの軽い気持ちだったのは覚えています。ところがやけに居心地のいい職場で、充実した日々が続き、気がつけば30年です。自分がやりたかった、教師になったらやってみたいと思っていたことは工夫さえすればほとんどのことが実現しました。中でも三十路すぎでから取り組んだバングラデシュとの交流は自分のライフワークのように熱をあげていました。小学校の雰囲気、とくに時の校長先生たちが「いいねえやっでござん」と支えてくださったことがカギでした。

横須賀学院小学校は戦前から続くようないわゆる伝統と格式のブランド名門校ではありませんが、やる気のある教員が自ら道を切り開いていくことのできる学校です。この30年間で様々なことに取り組み、もういいかなと感じ始めた時に長く介護を続けてきた母親が他界し、そのタイミングで校長職を拝命しました。あのとき神さまに次の仕事を与えられたのだと感じました。

コロナ禍では礼拝すら制限され、キリスト教学校としてアイデンティティー喪失の危機を感じました。讃美歌は歌ってはいけなものの、アーメンを口にするのも禁止。思えば収容所にいるようなあの2年間を経て、ようやくいま小学校では礼拝に歌声が戻り、人とのふれあいが日常になりました。キリスト教学校としてのあるべき姿が見えてきた今日です。

初等教育こそがキリスト教教育の土台です。私たちはキリスト教学校としての日常を充実させ、常に感謝の心を忘れずに見えないけれど大切なものを常に心に感じつつ、あらためてしっかりと見つめていかなければなりません。

私学はある意味実家のようなものです。帰ってくる場所、帰れば母校という実家の家族が待っている。旅立った子どもたちが成長した立派な姿を見せてくれる、これこそ私学に勤める者の喜びです。我々は卒業生が帰ってくる場所を守り抜く勤めを担っています。小さな小学校ですが今後もどうぞお支え下さい。



新しい器に創立の思いを

今年度より校長となりました天野海走と申します。新米校長ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会の皆様には、横須賀学院の教育活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。母校を愛し、いつも母校のために心を砕いてくださる同窓会の皆様のご支援は、私立学校である横須賀学院にとって、大きな力だと常を感じております。生徒たちも、温かい応援をいただきながら、日々の学習活動、課外活動に勤しんでおります。生徒たち一人ひとりが充実した学校生活を送り、同窓の皆様にとってますます誇ることのできる学校へと発展するように、教職員一同でサポートしてまいります。

今年度、横須賀学院は創立74周年を迎えました。戦後の混乱期に、真の平和と民主主義の社会をつくるにはキリスト教による教育が不可欠との思いから学院はスタートしました。しかし、創立当初は、校地も校舎も自前のものではなく、基本財産を持たないスタートでした。そのような中、教員たちは、キリスト教教育にける情熱と祈りを持って馳せ参じたのです。物質的には貧しい環境でしたが、清らかな賛美の歌声と互いを受け容れあう温かさが学校内には満ち溢れていたといえます。また「我らの学院は、我らの手で」という言葉が語られ、自分たちの手で学校を創っていこうという奉仕の心があったといえます。

さて、創立から74年経った今の横須賀学院を創立当初の方々が見たら、どのように思うでしょうか。新しい校舎、チャペルが建設され、校地も整えられてきました。70周年では、カフェテリア、パイプオルガンも設置され、大変充実した施設・設備になりました。きっと、昔の方々が見れば、立派な学校になったと驚くのではないのでしょうか。だからこそ、今、私たちは与えられた器を満たす創立時からの思いを忘れないようにしたいものです。学院を愛し、自分たちの手で学院を支えようとした奉仕の思い。喜びを持って生きる神への賛美。互いを受け容れあう温かさ。平和と民主主義の社会を担う若者を育成するために集まった教員たちの熱い思い。これらのことを、いつも心に想い起しながら教育活動にあたっていきます。

特に、今の時代にあっても、平和と民主主義の教育は強く求められていると感じます。その根本は、ひとり一人の存在の価値を認めること、自分の問題を自分で考えることができることです。中高生には、様々な社会課題に関心を持ち、失敗を恐れずに価値のあることにチャレンジできる人へと成長することを願っています。

学院文化祭～楠木祭～

9月21日(土)

9時～15時

(荒天時は、翌22日)

毎回好評のビンゴ大会を開催。
詳細は、下記をご覧ください。



毎年、同窓会が主催する大人気のビンゴゲーム。
カード1枚500円。午前の部と午後の部に各100枚を校内で
当日限定販売します。
収益金は、全額母校に寄付します。
午前の部は、11時30分、
午後の部は午後1時スタート。
いずれも会場は、本館2階の第二会議室が
臨時の同窓会室です。



賞品多数をご用意しています。



その枝会

キリスト教青年会のOBを中心に現役の青年会を支援し、ともに活動することを目的とする。今年で創設60年を迎えました。文化祭では、恒例の「その枝ラーメン」のコーナーを行っていました。今年からは、新たなブースを始めます。お楽しみに。



学院今昔物語

学院がある場所には、かつて海軍機関学校（海軍工機学校）があり、2号館前に碑があります。海軍機関学校の沿革は、明治2（1869）年に東京築地に設置された海軍操練所に遡ります。明治34（1901）年9月白浜校舎が現在地に完成しました。大正12（1923）年の関東大震災で全焼し、江田島に移転するまでの22年間に1,324名の卒業生を送り出しました。



小説家・芥川龍之介は大正5（1916）年から1年4か月間英語教官を、小説家であり随筆家の内田百閒（うちだ・ひゃっけん）も同時期にドイツ語教官を務めていました。

かつて学食があった2号館は、学院内に唯一残る機関学校時代に建設された建物です。そのために階段が軍艦を模して一段一段が高く、廊下なども昭和の印象を受ける内装のままです。空襲の備えとして一本一本の柱が太く設計されていることや、一部の窓が小さいのも軍施設の名残です。



貨物列車で行こう

高校31期生の穂田文雄さん（ペンネーム・長田昭二）が文藝春秋から新刊「貨物列車で行こう！」を発売しました。

新聞社や出版社勤務を経て、24年前からフリーランスのライターとして医療記事を中心にさまざまな分野で取材執筆活動を行っています。著者の少年時代からの夢であった貨物列車の乗務員室から見た世界が広がります。

文芸春秋・1,980円（税込み）



聖歌隊OB合唱団「Bless」

学院創立40周年から聖歌隊OBが「Bless」の名称で活動を開始。「メサイア」を歌いたいとPTA合唱団や外部の人も加わり、現在約30人の団員が定期的な練習を重ね、スキルアップを図っている。団員募集中 問い合わせ先 学院教員 北見正之

今年度のメサイア練習日程

10月 5日（土） 10月19日（土）
11月 2日（土） 11月16日（土）
11月23日（土） 12月14日（土）
すべて16:00～18:00
横須賀学院大チャペル



聖歌隊OB合唱団「Bless」連絡先

横須賀学院高等学校 聖歌隊顧問 斎藤 裕・齊藤 美咲・吉住 高志
横須賀市稲岡町82番地 ☎046-822-3218（代表）



第62回公演 横須賀学院 クリスマス音楽会

Messiah 12月17日（火）
会場：横須賀市文化会館大ホール
◎詳細は、学院ホームページでお知らせします。

2024年度 大学合格実績

（既卒者を含む）

国公立大学に22名が合格

東京外国語大学 2 埼玉大学 1
東京工業大学 1 東京都立大学 5
東京学芸大学 1 横浜市立大学 1
東京海洋大学 2 秋田県立大学 1
横浜国立大学 2 神奈川県立保健福祉大学 3
千葉大学 2 川崎市立看護大学 1

早慶上理に28名が合格

早稲田大学 12 慶応義塾大学 5 上智大学 5 東京理科大学 6

GMARCHに143名が合格

学習院大学 7 明治大学 30 青山学院大学 39
立教大学 16 中央大学 19 法政大学 32

医学部、海外大学にも合格！

北里大学（医）2 杏林大学（医）2 帝京大学（医）1 東海大学（医）1
愛知医科大学（医）1 獨協医科大学（医）1 東京女子医科大学（医）1
チェコ国立大学（医）1 銘伝大学（台湾）1

学院だより

小学校特集

2024年度、山口新校長のもと、新たな体制でスタートしました。全校児童158名、全7クラスと規模は小さいですが、子どもたちは笑顔いっぱい、のびのびと学校生活を送っています。これからも本校は、敬神・愛人の建学の精神のもと、隣人を愛し、世を照らす光の子として過ごせるように、さらに実体験を重視した学習や英語「で」学ぶ外国語教育など、特色ある教育活動を進めていきます。本校ホームページのほか、Instagramやフェイスブックで日常の様子をご覧くださいませ。フォローをよろしくお願いいたします。



ボルダリング教室

オリンピック種目に採用されたことをきっかけに、市内のジムへ出かけ、体験しています。



クリスマス・ページェント

コロナ禍を経て、2023年度ほぼ例年通りの形で実施できました。



3年自然学校

富士山の裾野に広がる高原で自然を満喫します。

野球しようぜ！



大谷選手からのグローブが届いたことをきっかけに、野球ができるよう人数分のグローブを準備。さらに元プロ野球選手の保護者の方に協力いただき、野球教室を開催しました。



5年林業特別授業

例年林業従事者を講師としてお招きし、授業と実演をしていただいています。



6年生ハンドベル演奏

横須賀中央駅前モアーズでのイベントに参加し、演奏しました。観客の方に体験もしていただきました。



こども大学院

1年間研究してきたことを全校の前で発表します。



2023年度より岩手県久慈市で実施。うち1泊は民泊し、雪国の生活を体験しました。



4年自然学校



トラベルテディプロジェクト

この人形はポーランドから来ている留学生。3年生と半年間過ごします。

iPadはいまや協働学習、個別学習、委員会活動等、無くてはならないツール。



マラソン記録会

Aグラウンドで行うマラソン記録会。全員が目標タイムを超えられるようがんばっています。

2023年12月に姉妹校の大村國小を6名の児童生徒が訪問し、学校生活やホームステイで台湾の生活を体験しました。



台湾国際交流



2024年度から全日すくすくランチ開始。ご飯はおひつから自分の食べられる分だけよそいます。

中学校便り

5月下旬の総合学習週間プログラムが、コロナ禍後久しぶりに3学年共に通常の形に戻りました。

中1は、前半2日間のイングリッシュデイズ(ネイティブの先生10数名とのグループワーク)に教師も驚く大盛り上がり、英語のシャワーを浴びながら、身振り手振りも交えて一生懸命にコミュニケーションをとる表情が輝いていました。最終日は天候にも恵まれ、小網代の森の散策を楽しみながら、生態系について、自然と共に生きる意味について学ぶことができました。



中1 小網代散策

中2は、清里の自然を満喫しながらの3泊4日のプログラムです。農業体験や獣害についての学習、早朝の礼拝、夜の散策、自然の中で自分自身を見つめる時間など、貴重な時間と空間を与えられました。



中2 清里(農業体験)

中3は、那覇空港に到着する1時間前に梅雨入りとなり、大雨とその狭間の薄日をうまくかいくぐりながら、臨機応変に思いっきり学び楽しんだ3泊4日の沖縄体験学習となりました。戦跡をたどり、その地でのお話に真剣に耳を傾け、そしてこれからの平和を考えるべく、3グループに分かれての基地フィールドワークも行いました。夜は、それを共有しながら、基地のある横須賀にいる自分たちがこれから何をしていくことが大切かを、グループで話し合いました。



中3 沖縄(ガマ・ガジュマルの木)



これらの学びは、9月の文化祭でも展示発表しますので、ぜひご覧ください。

高等学校便り

今年6月11日(火)、晴天の下、横須賀市不入斗競技場で、高校の全校体育祭が開催されました。コロナ禍のために、2020年から中止を経て、学年ごとの学年体育祭と続き、5年ぶりの全校体育祭となりました。高校生全員が初めて経験する全校体育祭です。体育科教員を中心に、過去の経験を思い出しながら、改めてつくりあげる体育祭となりました。また、今回は学外の施設を使用しての開催となりました。過去には稲岡祭で、学校を飛び出してのレースが行われたということは聞いていますが、完全に外部での開催は今回が初めてだと思います。

当日は、広い競技場を目いっぱい使って、高校生たちが一生懸命に競技をしました。有志の応援団も3年生が中心となってまとめ上げ、立派な応援合戦を披露してくれました。終了後は、疲れた様子を見せながらも、皆、充実した顔つきで帰路へ着きました。

今回、久しぶりに全校体育祭を経験した高校生たちが、また新しい体育祭の伝統を築いていってくれ、と信じています。



同窓会ホームページを ご覧ください

「横須賀学院同窓会」で検索できます。

同窓会IT委員会では、同窓会の行事や懐かしい学院を写真で紹介しています。ぜひご覧ください。タイムリーに同窓生にお役に立てて頂けるように「同期会やクラス会」「サークルへの参加募集」「同窓生の活躍情報」などさまざまな情報をお寄せください。IT委員会活動に少しでもお手伝い頂ける方も下記へご連絡ください。



同窓会事務局

☎ 046-822-3218

FAX 046-826-1443

同窓会終身会費納入のお願い

— 母校の発展と相互の絆のために —

すでに多くの皆様のご協力を頂いております。下記の皆様で未納の方はよろしくお願いいたします。

◎1983年度（'84年3月）卒業生及びそれ以前に卒業された方。高校1期～31期

中学校1期～32期 小学校1期～34期

◎金額 終身会費として、1人1万円（2千円ずつ5回の分割支払い可）

◎詳しくは事務局までお問い合わせください。

同期会開催の幹事さんへ

同窓会では、各期同窓会の開催通知にかかる往復はがき料金の援助を行っています。詳しくは、学院事務局までお問い合わせください。

住所を変更された方へ

同窓会会報などを郵送するため、住所を変更された方は学院事務局まで電話かファックスでお知らせください。

訃報

永眠者のご報告
神のみもとでのご平安をお祈りいたします。（敬称略）

佐藤 啓子（高13、中11期）

松浦三枝子（高14期）

鮫島 健一（高14期）

木村 義明（高7、中5期）

高橋 克己（高11、中9、小8期）

佐々木昌子（高11、中9、小8期）

金子 秀雄（高14期）

湊 敏幸（中11期）



編集後記

虫の音に秋を感じる季節となりました。

第3代須藤史朗広報委員長からバトンを頂き、平成22年（2010）から会報は、年2回から1回発行。大きさはB5判からA4判そしてカラー版になりました。微力ながら広報委員会のメンバーとともに見やすく親しまれる広報づくりを目指して参りました。今後も同窓生に寄り添う広報づくりに努めますので、ご協力よろしくお願いいたします。（桐）

発行者 横須賀学院同窓会

会長 沼田 芳明

住所 ☎238-8511

横須賀市稲岡町82（横須賀学院内）

電話 046（822）3218（代表）

FAX 046（826）1443

発行日 2024年（令和6年）9月12日

編集者 広報委員長 桐ヶ谷良之

印刷 文明堂印刷(株) 横須賀市東浦賀1-3-12